

金沢大学薬学教育自己点検評価報告書（令和4年度）

部局名：薬学系

部局長：加藤将夫

目標・取組	目標・取組の実施状況および課題等
<p>1. 【学類入試委員会】</p> <p>① 入学定員を管理して、一般選抜試験を実施する。</p> <p>② 入学定員を管理して、薬学類・高大院接続入試を実施する。</p> <p>③ 令和7年度入試の教科・科目・配点を検討する。</p>	<p>① 一般選抜試験の主体性評価および合格判定参考資料を作成した。合格判定後、入学定員105%以内の入学者数となった。</p> <p>② 薬学類・高大院接続入試において、学力の3要素を多面的に評価した採点結果を、複数者の確認を経て集計した。また、令和5年度入試より、薬学類・高大院接続入試により多くの優れた志願者が集まることを期待して英語外部試験を導入した。薬学類・高大院接続入試の志願者増加へ向けた調査および広報が課題である。</p> <p>③ 令和7年度入試の「情報」の扱いを含む教科・科目・配点を決定した。</p>
<p>2. 【高大接続委員会】</p> <p>① 対面キャンパスビジットを実施する。</p> <p>② Webキャンパスビジットを実施する。</p> <p>③ 学類パンフレットを作成する。</p> <p>④ 出張講義・学類紹介を行う。</p>	<p>① 10月1日に対面キャンパスビジットを実施した。10月が適切な時期であるかが課題である。また、今年度は家族の同伴を不可としたが、今後、どのように扱うかが課題である。</p> <p>② 8月9日、10日にWebキャンパスビジットを実施した。非常に多くの高校生が参加し、とても盛況であったが、短い時間内でどのように高校生からの多くの質問に適切に回答するかが課題である。</p> <p>③ 学類パンフレットを作成した。毎年、継続的に作成し、情報を更新していくことが課題である。</p> <p>④ 6件の出張講義・学類紹介を行った。高大院接続入試の受験生が少ないため、担当教員が、高校生に対して適切に紹介することが課題である。</p>
<p>3. 【学類教務・学生生活委員会】</p>	

<p>① 薬学類における3つのポリシーの見直しと学生への周知方法を改善する。</p> <p>② 薬学類新カリキュラムに対応した種々のルールを策定する。</p> <p>③ カリキュラムマップ・カリキュラムツリーを見直す。</p> <p>④ 研究室紹介実施時期を見直す。</p> <p>⑤ 博士課程進学者の増大を計る。</p>	<p>① 薬学類における3つのポリシーについて、全学における統一的な記載方法に準拠しつつ、見直しを行い、Webサイトに掲載した。学生が身につけるべき資質・能力の評価法を明示するループリックを作成するとともに、令和6年度入学者から適用される薬学教育モデル・コアカリキュラム（令和4年度改訂版）に対応した改訂を進めていくことが課題である。</p> <p>② 令和3年度入学者から適用される新カリキュラムにおいて、令和5年度から実施されるラボローテーション実施方法の詳細を策定した。実際に実施した上で問題点を抽出し、改善策を検討していくこと、また、それに応じてループリックを見直していくことが課題である。進級要件に必要な単位数をより柔軟に修得できるようにCAP上限の改定を行うとともに、進級判定の手順・時期の詳細策定と見直しを行った。また、留年した場合の上位学年配当授業科目の履修制限を策定した。学年進行に沿って問題点がないかを検証していくことが課題である。総合教育部からの移行生を対象とする薬学研究ラボローテーションSの実施方法について見直しを行った。見直しは継続的に行い、それとともにループリックも見直していくことが今後の課題である。</p> <p>③ カリキュラムマップ・カリキュラムツリーの見直しを行い、その結果を「学生の手引き」に反映させた。</p> <p>④ 学生との懇談会およびアンケート等による要望を踏まえ、博士一貫プログラム学生および総合教育部からの移行生も研究室配属前に研究室紹介を受講できるように実施時期を変更した。</p> <p>⑤ 1年次科目において、一般入試入学者に対し博士一貫プログラムとそこへの移行ルールの説明を行うとともに、プログラム学生</p>
---	---

	<p>による体験談の紹介を行った。体験談紹介への参加者を増加させることが課題である。</p>
<p>4.【実習委員会】</p> <p>① 学生実習の日程について、学習効果の最大化を目指した組織的・計画的な点検を施す。</p> <p>② 学生実習の内容・教材について、学習効果の最大化を目指した情報共有を行う。</p> <p>③ 実習環境を点検・評価し、改善する。</p>	<p>① 段階的に高度な内容を学習できるように“基礎から応用へ“、また、講義で学んだ知識や理論を活かす実感教育となるように“座学から実践へ”、それらを実現するために、連動性とタイミングに注視した内容・日程を計画した。毎年の講義日程に応じて、継続的に調整・改善を図っていくことが課題となる。</p> <p>② 各実習で用いた教材（実習書）の共有・保管スペースを確保し、自由閲覧を可能にした。これにより、実習間での内容の重複を避け、段階的な学習強化と計画に役立てた。毎年の継続的な実施と共に、実習内容の改定があった場合の案内など、今後は、本取組の効率化にも注視すべきである。</p> <p>③ 充実した設備・環境の中で実験が楽しめる豊かかつ最新の実習設備を用意し、整備・確認に努めた。特に、機器の老朽化について情報共有し、必要に応じて、機器類のアップデートを行った。また、実習委員長と実習補佐員の下、実習全体の企画・立案、日程調整、教材、設備・備品などの一元的管理を行い、学生実習の円滑な運用に努めた。毎年、継続的に実施することが課題である。</p>
<p>5.【教育方法改善委員会】</p> <p>① 教育研究活動の向上を図るための組織的な取組みを行う。</p>	<p>① 全教員を対象とする薬学 FD 研修会を実施した。学内外の教育・研究に関する種々の問題に関する専門家の講演を聴き、意見交換、総合討論を行った。教育研究活動の向上を図るためにも毎年、継続的に実施することが課題である。</p> <p>最先端の医療実務を教授するため、医療薬学関連の講演会や学術集会へ積極的に参加</p>

<p>② 新任教員を対象とした新任教員 教務関連研修会を実施する。</p>	<p>し、その結果として日本薬剤師研修センター認定薬剤師，日本医療薬学会認定薬剤師認定薬剤師の資格を継続して維持している。</p> <p>② 教務全般の説明（カリキュラム，履修について，成績判定，アカンサスポータルの運用，授業アンケート，アドバイザー制度等）を実施した。教育研究の質の向上と教務内容全般の確認作業を毎年，実施することが課題である。</p>
<p>6. 【点検評価委員会】</p> <p>① 薬学教育にかかる自己点検・評価を組織的・計画的に行う。</p> <p>② 授業評価アンケートを実施する。</p> <p>③ 教学 IR を実施する。</p>	<p>① 各委員会からの自己点検評価報告書を取りまとめ，薬学系ウェブサイトにて公表した。毎年，継続的に実施することが課題である。</p> <p>② 授業評価アンケートを実施した。今年度より全学的統一システムでの実施により，アンケートに回答しないと成績閲覧できなくなったことに伴い，回答率の大幅増加に繋がった。アンケート結果の経年的分析を行うことが課題である。</p> <p>③ 過年度生在籍率，留年数，進級率，卒業生の就職先などのデータ分析を行なった。学修を効果的に実施するための教学 IR を充実させることが課題である。</p>
<p>7. 【キャリア形成委員会】</p> <p>① キャリア形成セミナーを開催する。</p> <p>② 薬学系企業等説明会を開催する。</p>	<p>① エゴグラム診断，グループディスカッション対策，募集要項の見方講座，エントリーシートの書き方講座，就活スケジュール講座をテーマにキャリア形成セミナーを開催した。対面およびオンラインで開催したが参加者からは好評ではあったが，参加者が例年より少な目であった。大学院進学促進との兼ね合いもあるが，参加者数を増やすことが課題である。</p> <p>② 対面形式での開催が難しかったため，オンラインで企業等説明会を開催した。セミナー同様参加者が例年より少なかった。参加者のみならず，不参加者に対しても調査</p>

<p>③ 教員・大学院生・学類生の交流会を開催する。</p>	<p>し、薬学独自の説明会の在り方を考えるなどの対応が課題である。</p> <p>③ 当該交流会は、コロナ禍前まで学類卒業論文・大学院学位論文発表会終了後に開催していた。この会は、全教員・大学院生・学類生が参加し、交流を通じてキャリア情報を交換する場であったが、感染対策のため開催できないままとなっている。感染対策状況を考慮しながら、今後の継続性を考える必要がある。</p>
<p>8. 【国家試験対策委員会】</p> <p>① 薬学類6年生が薬剤師国家試験に合格するためのガイダンスや講習を企画する。</p> <p>② 薬学類6年生の薬剤師国家試験の結果を収集し、まとめる。</p>	<p>① 薬学ゼミナールによる薬剤師国家試験対策講習及び模試を企画し、学生の試験対策を行った。学年により成績分布が異なるため、それに応じたガイダンスや講習の実施が課題である。</p> <p>② 発表された薬剤師国家試験の合格率を過去の結果とともにまとめ、各種委員会と共有した。国家試験の各設問に対する正答率を分析し、正答率が悪かった項目を大学教員による講義へフィードバックすることが課題である。</p>
<p>9. 【CBT委員会】</p> <p>① 薬学教育プログラムの共用試験（CBT体験受験・本試験）を実施する。</p> <p>② 金沢大学薬学共用試験 CBT 監督要領，薬学共用試験 CBT 体験受験・本試験受験生用マニュアルを作成する。</p>	<p>① 大きなトラブルなく薬学教育プログラムの共用試験（CBT 体験受験・本試験）を実施した。学内サーバの変更があったため、セットアップが煩雑であり、より効率的なセットアップが課題である。</p> <p>② 金沢大学薬学共用試験 CBT 監督要領，薬学共用試験 CBT 体験受験・本試験受験生用マニュアルを作成した。適切に作成することができ、毎年、継続的に実施することが課題である。</p>
<p>10. 【OSCE委員会】</p> <p>① 令和6年度に新カリキュラム入学者65名がOSCE受験することを視野に入れ、レーン数や教員の役割分担を見直して計画・実施する。</p>	<p>① 当初、6課題3レーンでの実施を計画していたが、薬学共用試験センターより課題数を3課題とする旨指示があり、レーン数は変更せず2レーンとし、教員の役割分担の</p>

	見直しに特化して取り組んだ。評価者・誘導者の役割を見直して実施し、問題無く実施できることを確認した。3レーンでの実施が課題である。
11-1.【医療薬学実務委員会】 ① 新カリキュラムに準拠した学内医療系実務実習体制の再構築(人数増への対応) ② 新カリキュラムに準拠した学内医療系実務実習、演習の評価体制の整備 ③ 服薬指導支援・フォローアップシステムの導入	① R5年度から一部本格実施となる新カリキュラムにおける学内医療系実習を想定して導入した機材等の利用性を確認し、修正点の抽出を行った。実務実習を効果的に行うために、早い時期から症例に多く経験できる学内実習体制の枠組みを構築した。今後の検証が課題である。 ② 医療系学内実習、演習を系統的に評価できる概略評価表(ルーブリック評価)を作成した。今後、検証を行い適切に改訂するのが課題である。 ③ 薬局業務のDxに対応し、活用出来る人材を育成するために、早期(事前学習の段階)から服薬指導支援・フォローアップシステム(musubi)を利用する服薬指導演習を計画し、本年導入した。そのために、症例データを準備し、実際に実習に適応した。今後、症例データの充実や学生の人数に応じた実施が課題である。
11-2.【実務実習委員会】 ① 新型コロナウイルス感染症対策の対応 ② R5年度実務実習体制の調整 ③ R7年度開始の新カリキュラムに準拠した実務実習体制の検討	① 新型コロナウイルス感染症拡大状況に応じ、医療施設と連携を取り医療の提供および実務実習に支障がない様に対策を実施した。今後も同様に状況にあわせた対応を行う。 ② 北陸地区調整機構と連携を取り、関係団体とも協力しながら実務実習配置を行った。今後も同様な対応を継続する。 ③ 新カリキュラムにおける実務実習体制を検討し、改定案を策定した。いくつかの問題点もあり、さらなる検討を行う。
12.【教育・研究環境管理委員会】 ① 教育、研究活動に係る環境管理に関し基本	① 基本的事項として、災害時の避難経路の確

<p>的事項を定め、環境負荷の低減に貢献する。</p> <p>② 各薬学系研究室を定期的に巡視し、研究環境の安全項目をチェックして必要に応じて改善を促す。</p>	<p>保、地震対策として薬品棚、ガズボンベ等の固定、有機溶媒の廃棄確認等々のチェック項目を定めた。</p> <p>② 各薬学系研究室を年2回巡視し、上記基本項目をチェックして改善を促した。1ヶ月後にその改善が実施されたことを確かめた。記録として巡視時と改善後の実態を写真撮影して記録に残した。年2回の巡視を継続的に実施することを目標にしている。これにより軽微な改善で対応出来ている。問題点として、巡視時の立ち会い者とのスケジュール調整があげられるが、現行でも十分に対応できている。危機管理マニュアルの改訂の必要性を検討することが課題である。</p>
<p>13. 【学術情報 Web 委員会】</p> <p>① 薬学系 Web サイトの更新情報を確認し、必要な情報を掲載する。</p> <p>② 薬学系 Web サイトの情報発信力を強化する。</p>	<p>① 薬学系 Web サイトにおいて、教務関連情報として、アドミッション・ポリシー (AP)、ディプロマ・ポリシー (DP)、カリキュラム・ポリシー (CP)、および授業評価 (受講生から教員への要望と教員の回答) の掲載を確認した。また、自己点検評価報告書 (令和4年度)、教員の優れた研究内容の掲載、教員や研究室情報の更新や入試関係についても掲載情報の確認をした。課題として、優れた研究内容の基準が設定されていないことが挙げられる。また、英語サイトの充実も残されている。</p> <p>② 薬学系の特徴ある入試制度である「博士一貫プログラム」の広報のために、薬学系 Web サイトのトップページに「博士一貫プログラム」の説明へのリンク付けをした。また、PR 動画作成のための素材を撮影した。今後、魅力ある動画にするためのシナリオ作りや、女性登用促進を目指した女性研究者の活躍の魅力ある発信が課題である。</p>